

キシノウエトタテグモ

クモ目トタテグモ科

Latouchia swinhoei (Kishida)

石川県カテゴリー

準絶滅危惧

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

人の居住区域に近い所に棲んでおり、生息適地が失われやすく、全国的に減少してきている。

形態

体長10～15mm、雄9～12mmほど。頭胸部は光沢ある濃い黒褐色、腹部は長球状で淡いチョコレート色で、その背面に数対のさらに淡い色の矢状斑紋がある。

国内分布

本州、四国、九州。本州では太平洋側は宮城県、日本海側は岩手県がそれぞれの既知北限である。

県内分布

金沢市内で3箇所の記録があるのみ（泉野出町、兼六園、常磐町）。分布調査が不十分であり、もっと多くの分布地があると思われる。

生態

社寺境内や公園の敷石のわき、家の土台石のわき、あるいは丘陵地の崖地など、比較的乾いた明るい所の地中に深さ15～20cm（メス成体）の縦穴（崖では横や斜めの穴）をほって住居としている。穴の入口に円形片開きのフタづくり、そのすぐ内側にクモがいて、付近を虫が通ると飛び出してつかまえ、穴に引きずりこんで餌とする。フタは土などを着け、カムフラージュされているので見つけにくい。雌は10年以上生きる。雄は9～11月に雌を求めて徘徊する。このクモに寄生するクモタケという菌類があり、その棍棒状をした白っぽい子実体が梅雨期に地表に現れるが、これはクモの巣の所在をしるためのよい目印となる。

生息地の条件

上記のような所によくいるが、詳しい条件については不明。

生存の危機

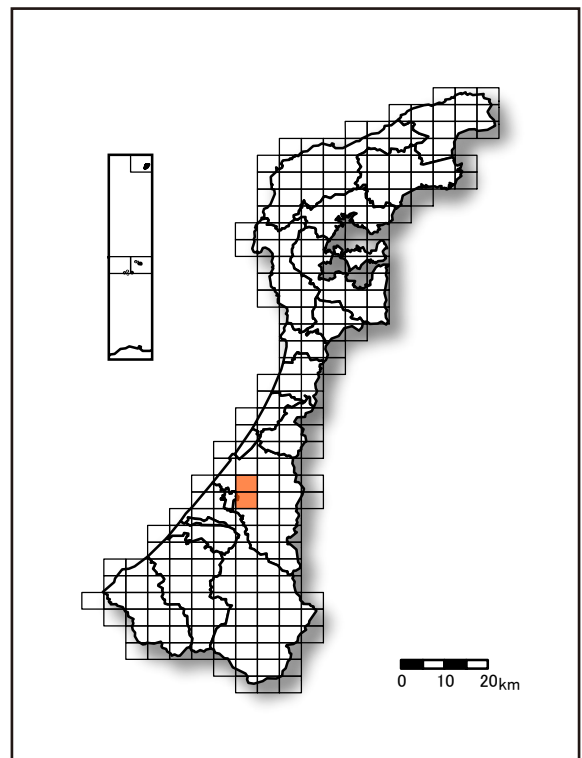
石川県では分布密度が低いようであるが、人居住地に近い所に棲むだけに生息地が消失しやすい。
(A)

参考文献

畑守有紀・新海明・上田俊穂 1997. クモタケの全国分布調査結果. *Kishidaia*. (72):34-47.
笹岡文雄 1992. キシノウエトタテグモの寿命について. *Kishidaia*. (63): 31.
鈴木成生 1996. キシノウエトタテグモの生態(1), (2), (3), (4). *Kishidaia*. (70): 35-56.



写真提供者: 谷川明男



県内の分布